

平成 30 年度
下水道に関する人身事故発生状況について
(平成 30 年 7 月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況(総括)

(平成30年7月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	7月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (4)
	2. 負傷事故	3 (3)	3 (2)	2 (2)	4 (4)	0 (3)	0 (4)	0 (1)	0 (3)	0 (7)	0 (5)	0 (4)	0 (2)	12 (11)	12 (40)
	合計	3 (3)	3 (2)	2 (2)	4 (5)	0 (3)	0 (4)	0 (2)	0 (4)	0 (8)	0 (5)	0 (4)	0 (2)	12 (12)	12 (44)
	累計	3 (3)	6 (5)	8 (7)	12 (12)	12 (15)	12 (19)	12 (21)	12 (25)	12 (33)	12 (38)	12 (42)	12 (44)	-	-
工事	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (3)	0 (11)
	2. 負傷事故	3 (4)	4 (5)	5 (5)	14 (5)	0 (7)	0 (13)	0 (6)	0 (16)	0 (13)	0 (13)	0 (15)	0 (11)	26 (19)	26 (113)
	合計	3 (4)	4 (5)	5 (6)	14 (7)	0 (7)	0 (15)	0 (7)	0 (17)	0 (13)	0 (14)	0 (17)	0 (12)	26 (22)	26 (124)
	累計	3 (4)	7 (9)	12 (15)	26 (22)	26 (29)	26 (44)	26 (51)	26 (68)	26 (81)	26 (95)	26 (112)	26 (124)	-	-
合計	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (4)	0 (15)
	2. 負傷事故	6 (7)	7 (7)	7 (7)	18 (9)	0 (10)	0 (17)	0 (7)	0 (19)	0 (20)	0 (18)	0 (19)	0 (13)	38 (30)	38 (153)
	合計	6 (7)	7 (7)	7 (8)	18 (12)	0 (10)	0 (19)	0 (9)	0 (21)	0 (21)	0 (19)	0 (21)	0 (14)	38 (34)	38 (168)
	累計	6 (7)	13 (14)	20 (22)	38 (34)	38 (44)	38 (63)	38 (72)	38 (93)	38 (114)	38 (133)	38 (154)	38 (168)	-	-

※下段()書きは前年度(平成29年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況(維持管理作業)

(平成30年7月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	15
	2. 政令市	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	13
	3. 一般市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
	4. 町村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	3	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	44
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. マンホール	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	3. 処理場	2	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	31
	4. ポンプ場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	5. その他	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	合計	3	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	44
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	負傷事故	3	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	40
	1. 墜落・転落	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
	2. はさまれ・巻き込まれ	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	3. 飛来・落下	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	4. 切れ・こすれ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
合計	3	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	44	
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	2. 委託先業者	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	39
	3. 第三者	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
	合計(人)	3	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	46
累計	3	6	8	12	12	12	12	12	12	12	12	12	-	-	

平成29年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2. 委託先業者	2	2	1	5	4	3	2	4	7	5	2	2	39
	3. 第三者	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	5
	合計(人)	3	2	2	5	4	5	2	4	8	5	4	2	46
累計	3	5	7	12	16	21	23	27	35	40	44	46	-	

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース(維持管理作業)

平成30年度

平成30年7月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	
7月							
1	H30.7.3	2. 政令市	処理場	①負傷事故	3. 飛来・落下	<p>処理場内の生物反応槽空気配管の点検中に付近の腐食した配管のねじ込み式フランジが脱落。配管内部のサビ等が圧縮空気とともに、付近で作業していた職員の顔に当たり顔面裂傷。</p> <p>老朽化した配管の作業を行う際は、保護具(ゴーグル等)を着用する。</p>	自治体職員
2	H30.7.11	2. 政令市	処理場	①負傷事故	14. その他	<p>集草業務中に作業員1名が突然倒れ、ろれつが回らなくなり意識がもうろうとなった為、救急車で病院へ搬送。熱中症を発症したと思われる。</p> <p>・罹災者をすぐさま病院へ搬送 ・熱中症予防のため、強制的な休憩 ・こまめな水分補給を行わせる</p>	委託先業者
3	H30.7.24	3. 一般市	その他	①負傷事故	1. 墜落・転落	<p>開水路内の除草作業をしていた作業員が立ち上がった瞬間、意識が遠のいて、排水路に転落した。</p> <p>熱中症対策も含めて再発防止策を受注者と調整する。</p>	委託先業者
4	H30.7.25	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	14. その他	<p>・終沈トラフ清掃作業中、気分が悪くなり作業中止。休憩していたが回復しなかったため、救急車で病院へ。診察により、熱中症との所見。</p> <p>・朝の体調確認、水分、塩分補給 ・冷却効果のあるアイテム等の使用などの従来からの対策に加え、社員同士の随時体調確認 ・体調不良者が生じた場合は付き添うことを徹底する。</p>	委託先業者

3.事故発生状況(工事) (平成30年7月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	4	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	10
	2. 政令市	1	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	11	22
	3. 一般市	1	3	5	11	0	0	0	0	0	0	0	0	20	88
	4. 町村	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	合計	6	8	10	17	0	0	0	0	0	0	0	0	41	140
工事分類	1. 管きょ開削	3	6	7	8	0	0	0	0	0	0	0	0	24	86
	2. 管きょ推進	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	18
	3. 管きょシールド	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3
	4. 管きょその他	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8
	5. 処ポ土木建築	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13
	6. 処ポ機械電気	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	7. 処ポその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計	7	8	10	17	0	0	0	0	0	0	0	0	42	140
事故類型	1. 墜落・転落	0	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	30
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	29
	3. 飛来・落下	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	5. 転倒	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14
	12-2. 公衆災害(物損)	4	4	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	16	17
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. その他	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	
合計	7	8	10	17	0	0	0	0	0	0	0	0	42	140	
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	2. 重傷	2	4	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	20	81
	3. 軽傷	1	1	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	13	38
	合計(人)	3	5	6	19	0	0	0	0	0	0	0	0	33	130
累計	3	8	14	33	33	33	33	33	33	33	33	33	-	-	
その他(民間発注工事など)															
1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

平成29年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	1	2	0	2	1	1	0	1	2	1	11	
	2. 重傷	1	4	4	2	5	8	4	13	8	9	13	10	81	
	3. 軽傷	3	1	1	3	3	4	2	3	6	4	7	1	38	
	合計(人)	4	5	6	7	8	14	7	17	14	14	22	12	130	
累計	4	9	15	22	30	44	51	68	82	96	118	130	-		
その他(民間発注工事など)															
1. 死亡	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース(工事)

平成30年度

平成30年7月末現在

NO.	発生日月	工事情報			事故情報			被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
7月										
1	H30.7.3	1.都道府県	6.処ボ機械電気	攪拌機据付作業	現場内	濃縮汚泥貯留槽攪拌機を貯留槽内に取り込む作業中、地切りした直後にウインチのワイヤーが切れ、軸が落下した。振れ止めのために補助作業を行っていた作業員が軸が落ちた時、地面との間に手を挟まれかけ、手を引き戻したが接触し手を切ってしまった。	4.切れ・こすれ	17	男	右手中指・薬指裂傷、右手小指不全切断
2	H30.7.5	2.政令市	3.管きょシールド	人孔内圧蓋の切断作業	現場内	到達人孔内での内圧蓋設置作業において、小型発電機を電源としたペビーサンダーを使用していた。ペビーサンダー使用時には送風機φ300を1台稼働していたが、換気が不十分だったため一酸化炭素中毒が発生した。	14.その他	複数人	-	一酸化炭素中毒
3	H30.7.9	3.一般市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	汚水管渠開削工事の掘削作業中、元請業者がガス供給管に重機を接触させ、損傷させた。	12-2.公衆災害(物損)			
4	H30.7.9	3.一般市	1.管きょ開削	-	現場内	原動付自転車で自宅へ帰宅途中、仮舗装区間において転倒。現地確認の結果、仮舗装と既設舗装の間に5cm程度段差が生じ、ハンドルをとられ転倒した。	12-1.公衆災害(人身)	85	男	左頬骨折、顔面(ほほ)内出血
5	H30.7.10	3.一般市	4.管きょその他	コンクリート打設作業	現場内	ブロック張裏込めコンクリート打設作業を終日行っており、休憩所にて休憩後、現場に再度入場した矢先に気分が悪くなり、休憩所で休むよう指示を受け、休息した。被災者の状況は呼吸が荒く苦しうだったので救急車に連絡し、地域医療センターに搬送した。	14.その他	44	男	熱中症
6	H30.7.10	1.都道府県	2.管きょ推進	鋼矢板圧入作業	現場内	立坑築造のため、鋼矢板圧入作業中に、罹災者が杭打ち機に付着したグリースの拭き取り作業を行っていたところ、オペレーターが杭打ち機を操作させたため、上下動を始めたケーシング掴み装置に右手甲を挟まれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	33	男	右手第3・4指の開放骨折
7	H30.7.10	3.一般市	4.管きょその他	土砂運搬作業	現場外	工事車両が交差点を左折時に自転車と接触した。	12-1.公衆災害(人身)	30代	女	右足打撲
8	H30.7.13	3.一般市	6.処ボ機械電気	荷下ろし作業	現場内	最初沈瀬池よりワイヤーモック(鉄の網)を使用して撤去品の荷下ろし作業を行っていた。荷下ろし後に、ワイヤーモックを吊り上げた際、撤去品(30kg程度)が引っかかって持ち上がり、ワイヤーモックが振られ落ちてきた撤去品が被災者の足の甲にあたった。	3.飛来・落下	51	男	左第1中足骨骨折
9	H30.7.13	3.一般市	1.管きょ開削	埋戻し作業	現場内	埋戻し作業中(深さ1.4m)に振動転圧機を使用し、転圧作業を行ったところ、罹災者が機械の横方向にいたため、右足後方の地山が振動により、肌落ちし、右足に土砂が被ってしまい、動きがとれなかったところに、振動転圧機が接触し、右足のひざ部分を負傷した。	2.はさまれ・巻き込まれ	43	男	右膝骨骨折、右膝蓋骨骨折
10	H30.7.18	2.政令市	1.管きょ開削	コンクリート打設作業	現場内	作業員がインパットコンクリート打設のため、コンパネを用いて型枠を製作している際に、電動のこぎりで切断していたところ、のこぎり刃が舗装部表面と接触し、その反発によってのこぎり刃が跳ね飛ばされ、右太ももに当たり負傷した。	4.切れ・こすれ	65	男	右大腿切創
11	H30.7.20	3.一般市	1.管きょ開削	休憩時交通誘導	現場内	作業休憩終了後、作業に戻ろうとした際に罹災者が体調不良を訴えた。	14.その他	58	男	熱中症
12	H30.7.20	3.一般市	4.管きょその他	資材の荷揚げ作業	現場内	支保工内の資材の荷揚げ作業中に、マテリアルシャフトより搬出されたアースバケットについた土砂が上空約4.5mから被災者の首筋に落下した。	3.飛来・落下	18	男	中心性脊髄損傷
13	H30.7.20	3.一般市	1.管きょ開削	鉄板設置作業	現場内	移動式クレーン対応のバックホーで吊られた3.0×1.5mの鉄板を罹災者が補助的につかんだところ、オペレーターが、気づかず前進してしまい、罹災者の右足をキャタピラで巻き込んでしまった。	2.はさまれ・巻き込まれ	60	男	右足首開放骨折
14	H30.7.23	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	老朽化した下水道本管(φ450mm)を開削して入替えるため掘削した際に、ガスの引込管を損傷させた。工事の事前立会の際に示された引込管の位置を示すマーキングと、今回損傷した引込管が50cm離れていたことから誤って損傷した。	12-2.公衆災害(物損)			
15	H30.7.24	3.一般市	2.管きょ推進	立坑作業中	現場内	立坑に設置した転落防護柵を4ユニットで撤去作業中に、罹災者が荷台に上がろうとしたところ足を滑らせ、地上に転落、バランスを崩し、真横にある深さ約7.2mの立坑内に転落した。	1.墜落・転落	33	男	両足骨折、右手打撲
16	H30.7.25	3.一般市	1.管きょ開削	取付管布設作業	現場内	取付管布設時の掘削作業中、人力にて今回破損したガス管を目視できるように露出させ、掘削を行っていたが、バックホウの操作を誤り、バケットの先端がガス引込管φ25mmに接触し損傷した。	12-2.公衆災害(物損)			
17	H30.7.26	4.町村	6.処ボ機械電気	仮設電気設置作業	現場内	仮設現場事務所と、仮設作業員詰所間の電線保護管を、屋上に布設中、脚立から、バランスを崩し脚立とともに転落した。	1.墜落・転落	66	男	背中、頭部の強打

平成 30 年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
(平成 30 年 7 月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況

(平成30年7月末現在)

[総括]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水質事故等	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	0 (1)	0 (11)	0 (5)	0 (6)	0 (7)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	21 (53)
	累計	4 (1)	10 (4)	12 (10)	21 (16)	21 (17)	21 (28)	21 (33)	21 (39)	21 (46)	21 (49)	21 (53)	21 (53)	- -

[内訳]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	1 (1)	1 (1)	0 (2)	4 (2)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	6 (15)
	2. 政令市	0 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	4 (12)
	3. 一般市	3 (0)	3 (1)	0 (3)	4 (3)	0 (0)	0 (3)	0 (3)	0 (5)	0 (4)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	10 (25)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	0 (1)	0 (11)	0 (5)	0 (6)	0 (7)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	21 (53)
発生施設	1. 管渠	1 (1)	4 (2)	1 (3)	3 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (3)	0 (4)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	9 (20)
	2. マンホール	1 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (10)
	3. 処理場	2 (0)	1 (0)	1 (3)	4 (3)	0 (1)	0 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	8 (16)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)
	5. その他	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (6)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	0 (1)	0 (11)	0 (5)	0 (6)	0 (7)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	21 (53)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	0 (1)	3 (3)	2 (3)	4 (3)	0 (0)	0 (6)	0 (3)	0 (4)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	9 (29)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	2 (0)	2 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	5 (8)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	2 (0)	1 (0)	0 (1)	4 (2)	0 (1)	0 (4)	0 (2)	0 (2)	0 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	7 (16)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	0 (1)	0 (11)	0 (5)	0 (6)	0 (7)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	21 (53)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	2 (5)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	2 (1)	4 (2)	2 (2)	4 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (2)	0 (4)	0 (3)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	12 (21)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)
	水質事故 合計	2 (1)	6 (2)	2 (4)	7 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (4)	0 (6)	0 (6)	0 (3)	0 (2)	0 (0)	17 (38)
	その他案件	2 (0)	0 (1)	0 (2)	2 (3)	0 (0)	0 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	4 (15)
水質事故等 合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	0 (1)	0 (11)	0 (5)	0 (6)	0 (7)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	21 (53)	
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	② 耐用年数以内	2 (1)	2 (1)	0 (2)	2 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (3)	0 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	6 (17)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	2 (1)	2 (1)	1 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (3)	0 (4)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	8 (19)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()内書きは、前年度(平成29年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

平成30年度

平成30年7月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			状況分類		事故概要・対応		
		事業主体	発生施設	事故類型	供用年数 ／ 標準耐用年数	損傷・故障 の発生状況	事故概要	事故への対応	
7月									
1	H30.7.4	1. 都道府県	処理場	その他案件	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却灰を埋立処分していたところ、廃棄物処理法に基づく埋立処分の基準値を超えるセレンが検出された。(溶出試験による基準値:0.30mg/Lに対し、今回の焼却灰:0.36mg/L) ・4月以降、脱水機の運転方法を変更し、含水率の低い(固形分の多い)汚泥を焼却したため、焼却灰の発生量が増加した。 ・この結果、焼却灰に対して添加すべき消石灰の量が不足していたと判断される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な量(焼却灰に対して0.6%以上)の消石灰を確実に添加する。(実施済) ・県による消石灰添加量の確実な確認 ・焼却灰のセレンの基準値遵守 ・流域下水道全般に係るコンプライアンス遵守 	
2	H30.7.5	1. 都道府県	処理場	水質事故	③悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・放流水のBOD値が下水道法の基準値を一時的に超えた。(下水道法基準値:15mg/Lに対し、今回の計測値20mg/L) ・汚泥脱水機の不具合により、通常と異なる池運用を行っていたことが原因の一つとして考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥脱水機の不具合を解消した。 ・BOD値は基準内になっている。 ・水質悪化の原因究明をすぐに行い、水質悪化の兆候が見られた段階で、早目の対応を行う。
3	H30.7.11	4. 町村	処理場	水質事故	①悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・計画流入BOD値に対し大幅に計画を超える上回る流入があり、放流水BODが基準を超えた。(水濁法基準値:30mg/Lに対し、今回の計測値45mg/L) ・流入水の変化に対する運転方法の切替対応が遅れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアレーションの運転時間の調整及び薬品投入による対応を行っている。 ・流入水の変化に対応した運転調整を確実に進行。
4	H30.7.21	3. 一般市	管渠	水質事故	④雨水管からの悪質下水の流出	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者がドラム缶を洗浄した際に軽油が流出。 ・油水分離槽を設置しているが、一部の軽油がそのまま道路側溝に流れてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川への流出防止対策として、オイルマットを設置 ・原因者(民間事業者)への指導を徹底する
5	H30.7.26	1. 都道府県	処理場	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の操作手順を正しく行なわなかったため、分水槽における汚水の許容量を超えてしまい、上部の蓋から漏水した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理場外への流出措置を講じ、流出は無かった。 ・作業手順書とおりの作業の徹底、複数での確認。 ・ミーティング等により従業員への再発防止の徹底を図る。
6	H30.7.31	3. 一般市	ポンプ場	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・手でポンプを起動させた。 ・現時点で原因は不明。引き続きポンプの稼働状況を定期的に確認する。 ・電気設備事業者を機械設備業者が現場確認を行い原因を調査し、至急対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園駐車場の公共ますから汚水が溢れ出た。

水質事故等情報データベース(原因:施設損傷・設備故障によるもの)

平成30年度

平成30年7月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			状況分類		事故概要・対応		
		事業主体	発生施設	事故類型	供用年数 ／ 標準耐用年数	損傷・故障 の発生状況	事故概要	事故への対応	
7月									
1	H30.7.1	3. 一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	15/30	耐用年数以内	<ul style="list-style-type: none"> ・下水圧送管の空気弁劣化損傷により汚水の漏水 	<ul style="list-style-type: none"> ・即日、応急措置により漏水を止めた。 ・後日、空気弁の取り替え工事完了。 ・再発防止策は検討中。
2	H30.7.4	3. 一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	59/50	耐用年数経過	<ul style="list-style-type: none"> ・埋設管からの漏水が路面のヒビをつたって道路上に溢れた 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路掘削を行い埋設管の修繕を実施済み。
3	H30.7.16	1. 都道府県	マンホール	その他案件	-	4/7	耐用年数以内	<ul style="list-style-type: none"> ・車道に埋設されている下水道マンホール蓋の受枠止め具が破損し、マンホール蓋が2m程前方に飛ばされ、一時的にマンホールに蓋がない状況が生じていた。(※負傷者等無し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・破損したマンホールを調査するためメーカーへ送付。 ・県内の流域下水道事務所において、車道内の全マンホールのがたつき、段差を点検するよう要請。 ・がたつきの生じているマンホールについては、開孔して受枠部を確認する。 ・マンホールの径及び製造年を確認する。 ・点検結果については、道路管理者と地元区長へ説明を行う。